

平成 25年3月21日 No.183 所長 森津 陽太郎
守山市勝部三丁目9番1号 (守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター3・4階)
E-mail kyoikukenyu@city.moriyama.lg.jp Tel 077-583-4217 Fax 077-583-4237
H P http://www2.city.moriyama.lg.jp/moriyama-kyoikukenyu/

H25.2.22 (金) 315名の方が集われ「守山市教育研究発表大会」を開催しました。
教育講演・研究発表3題を紹介します。

守山市民ホール 集会室 14時～



<教育講演>

「はやぶさ」プロジェクトの挑戦と軌跡

—宇宙の神秘とロマン—

JAXA 宇宙航空開発機構 教授 川口 淳一郎

ダイジェスト版

- はやぶさは2回目の着陸のあと燃料漏れにあい消息を絶った。しかしプロジェクトチームはあきらめなかった。地球がゴールであり、3億キロのかなたから宇宙船の救出に向かった。その結果7週間目に電波が戻ってきた。2010年6月13日ははやぶさがかえってきた。はやぶさプロジェクトは前人未踏の挑戦であり、どこの国も考えていない、独創からはじまったのである。
- 金メダリスト彼らを支えるものは常に新しいことを探すことであり、ねばり強く耐えるものではない。やれる理由を探そう。私は学生時代、器械体操をやっていた。そして体操から加点法を学んだ。体操・フィギュアスケートは加点法であり、技に独創性があると点数が加点される。
- 50年100年後、地上で超高速輸送機、太陽系大航海時代を迎える。レアメタル、鉄、ニッケルなどで宇宙港を拡張し、埋め立て、ガス・食糧補給基地ができ、リハビリ施設、宿泊施設、娯楽施設、観光地を作る。人類は、地上ではなく、新宇宙港のような大きなまちができ、そこに居住する。
- わたしたちは太陽系大航海時代を迎える。大きな扉がそこには開かれている。はやぶさはイトカワにターゲットマーカー(タイムカプセル)を置いてきた。そこにはわたしたちの名前が書いてある。タイムカプセルはもう一度開けてみるからタイムカプセルである。もう一度拾いにいこう。
- 子どもたちには未来を見続けてほしい。新しいものを探すには「高い塔を建てなければ新たな水平線は見えてこない。挑戦しつづけ、高い塔を建てることである。そうすれば水平線は確実にひろがって未来が見えてくる。」

アンケートから

- 軽妙な語り口、ユーモア、“前例主義”から“初”への発想の転換のお話はすばらしかった。
- 未来を切り開いていける人間、加点法という視点で物事を観ることの重要性を知った。
- とても興味深いお話で時間を忘れて聞き入ってしまった。宇宙の話だけでなく、50年後、100年後の話が楽しかった。自分の子どもにも聞かせてあげたかった。教育に繋がることも多く大変勉強になった。
- 人間は過去にこだわってはいけない。未来を見据えて立ちあがる。固定観念にとらわれるな。感動の連続でした。
- 新しい事に挑戦しつづけるためには土台だけを作るのではなく高い塔を積んでいくことだと教えてもらった。プロジェクトを通じて人生の道を教えてもらえたように思う。すべての子どもたちに聞かせてあげたい。

研究発表大会の報告から

■学力学習状況調査考察 「守山市全国学力学習状況調査結果の考察・分析について」

平成 24 年度の学力調査は、小学校 3 校、中学校 2 校の抽出でした。調査結果から、守山市の子どもたちは、漢字や計算などの基礎・基本の習得がしっかりできていることが分かりました。反対に、活用力（考える力・説明する力）については、課題が残ります。日々の授業の中で、「やってみたい。」「伝えたい。」と思えるような取り組みを工夫していくことが大切です。

学習状況調査結果からは、地域の行事に参加したり近所の人にあいさつしたりする子どもの割合が高く、地域と良好な関係にあることが分かりました。また、学力調査との相関関係から、「家庭での会話」「早寝・早起き・朝ごはん」「家庭学習」が学力向上に大きく関わっていることが分かりました。

守山の子どもたちの確かな学力を育むために、地域・家庭・学校がそれぞれの役割を果たすとともに、互いが連携しながら取り組んでいくことが大切です。

■教育に関する調査研究 「子どもたちの意欲を高める生活・学習習慣づくり

～保・幼・小・中学校のつながりに目を向けて～

《昼寝のし過ぎは生活のリズムを乱す》

就学前の子どもにとっては、昼寝を極力せずに夜早く寝ることが生活のリズムを整える近道である。

《地道な取り組みで保護者の意識を変える》

就学前の子どもに関しては、保護者の協力なくして、より良い生活・学習習慣づくりは成立しない。

継続した啓発活動で、保護者の意識を「生活習慣づくりの大切さ」に向けることが大切である。

《他校種の取り組みから学ぶ》

小中学校での活動は、それまでの学びの続きの上にあるという認識が大切である。発達段階の、下の校種からの一方的な思いからではなく、上の校種からも学び合うという姿勢を大事にしたい。

《「自分の学年がその子のスタートでもなく、ゴールでもない」》

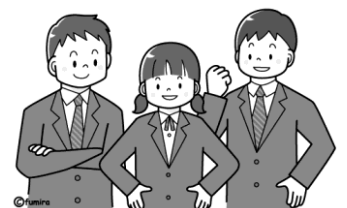
各校園では、子どもたちの今までの教育経験を分断させない実践をすることが望まれる。



■指導力向上に関する研究 「言語活動の充実を図る学習指導のあり方」

言語活動の充実を図る学習指導の在り方について、「協同的な活動」から迫りました。小中学校での実践授業より次の授業要素を見出すことができました。

- ・「発達の最近接領域」に合わせて、難しすぎず簡単すぎない課題を設定すること。
- ・話し合い活動をさせる際には、子どもたちに話し合うための判断基準を明確に示すことや、話し合う内容を焦点化すること。
- ・協同的な活動を取り入れる際には、個人思考の時間を設定すること。
- ・グループ編成は男女混合の 4 人グループだとよくいきやすいこと。
- ・シンキングツールの活用が話し合いを活性化すること。
- ・協同的な活動を継続して行うことが大切であること。



言語活動が充実しているとは、子どもたち一人ひとりが、思考力・判断力・表現力などを働かせているような言語活動です。「協同的な活動」を取り入れることがその実現に有効であるといえます。